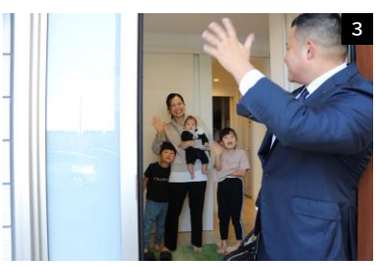
HaNEW LIFE

これ以上ないくらい家族を幸せに―。縁もゆかりもない土地への移住を即決

羽生市への移住を契機に、夢のマイホームを手にした金城さんご家族。仕事や習い事ですれ違いもありますが、毎日が笑顔にあふれています。

CASE-01



1.家族団らんの時間はいつも楽しい会話が飛び交います
2.出勤前の慌ただしいときも、家族とのコミュニケーションを最優先に考えます
3.「パパ、行ってらっしゃい」。寂しい気持ちを抑えて、笑顔でお見送り

ちょっとした時間が家族の幸福度を変える

「一生懸命仕事をして、家族に特別な経験や暮らしをさせてあげたい」

外資系金融機関に勤める唯仁さんは顧客の都合を第一に考え、週の半分は首都圏のホテルで生活。週休は一日という多忙な日々を送っています。

それを支える、妻の愛実さんは現在専業主婦。一人で家事や育児をこなし、あっという間に一日が終わりますが、不満を感じることはありません。

「用事がなくても、時間があれば夫と電話で話をしています。一般的な家族よりも会話は多いかも…」

共有できる時間が限られているからこそ、コミュニケーションを大切にする金城さんご夫婦。久々に家族がそろえば、目一杯そのひと時を楽しみます。

「将来、子どもたちがパパと同じ仕事をしたいと思えるくらい、自分なりの愛を伝えていきたいと考えています」

海辺への憧れを捨て移住先を変えた理由

結婚後、仕事の都合で埼玉県熊谷市のアパートで暮らしていた金城さんご夫婦。唯仁さんには昔から〝海の近くで暮らしたい〟という夢があり、マイホームの購入にあたり、さまざまな地域を見学しました。しかし、最終的に移住を決めたのは、海もなく、一度も訪れたことすらなかった場所でした。

「初めて羽生市を訪れたとき、妻が移住を即決しました。快適な日常生活が送れると直感したようです」

愛実さんが気に入ったのは、渋滞や狭い道が少なく車移動に便利なことや、子どもたちが遊べる公園が充実しつつ田舎すぎないところ。首都圏での仕事が多い唯仁さんも、これまで不便を感じたことはないといいます。

「首都圏にも車で気軽にアクセスでき、手頃な価格でマイホームを持てました。本当に満足しています」

Profile

金城唯仁（きんじょうただひろ）・愛実（めぐみ）さん

埼玉県熊谷市から移住（2016年）

夫：唯仁さん（30歳）、妻：愛実さん（31歳）、長女：唯七さん（7歳）、長男：唯人さん（5歳）、次男：大來さん（0歳）の5人家族。唯仁さんは学生時代に水球日本代表候補選手として、愛実さんはアーティスティックスイミング日本代表選手として活躍。2015年に夫婦となり、自分たちの経験を子どもたちの成長につなげたいと日々奮闘している。